

第4回 新潟市花育推進委員会 議事録

日 時	平成 22 年 10 月 26 日（火）午後 2 時～午後 4 時 30 分
会 場	新潟市園芸センター研修室
出席委員	伊藤委員、今西委員、加藤委員、楠田委員、杉山委員、関委員、真木委員、丸山委員、森田委員、四柳委員
傍聴者	1 名
事務局	園芸センター（永田所長、戸田副主査、木村技師） 関係課 農村・都市交流施設整備課（秋山課長、瀧澤係長、本間主査） 食と花の推進課（佐久間主査） 食育健康づくり推進課（黒崎係長） 公園水辺課（高橋副主査） 環境政策課（小林副主査） 保育課（風間指導保育士）

永田所長	<p>本日は、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。ただいまより第 4 回花育推進委員会を開催させていただきます。司会を務めます園芸センターの永田です。よろしく願いいたします。本日は委員の皆様全員出席で、ありがとうございます。本日の会議の内容は、委員の方々に確認のうえホームページに公開させていただきますのでご了承をお願いいたします。本会の開催は 6 月の第 3 回花育推進委員会の折、「(仮称)食育花育センターの整備の概要」についてご説明し、委員のご意見をお聞きしたところです。その後、事務局サイドで(仮称)食育花育センターの開園後の事業実施、管理運営の内容について(案)を作りました。今日は委員の皆様にご検討いただきたいとのことで開催いたしました。(案)を作りましたと言っても、内容はまだ固まっていないところもあるため、ご意見をお伺いして参考にさせていただき、円滑な推進を図っていきたくと思っています。</p> <p>本日は(資料 1～資料 4)と座席表を準備しましたので確認をお願いいたします。座席表の下側に事務局サイドの関係課を載せて、紹介に替えさせていただきます。本日の会は 1 時間半ほど、遅くとも 4 時くらいには終了したいと考えています。</p> <p>次第の「2 議題」の(1)から(3)までは、森田会長に議長として司会進行をお願いしたいと思います。森田会長よろしく願いいたします。</p>
森田会長	<p>それでは私、森田が司会を務めて先に進めて行きたいと思います。今日は(仮称)食育花育センターの議論が中心ですが、次第に従いまして議題の(1)平成 22 年度花育推進事業の実施状況について、事務局の方から説明をお願いいたします。</p>
事務局 (戸田副主査)	<p>「資料 1」、「資料 1:別紙」については、新規に開設した「花育情報サイト」の中に紹介されているので、映像を使って説明。</p>
森田会長	<p>ありがとうございました。今まで紙だけで説明を受けていたので分かりにくかったが、わかりやすくて大変良かったです。ただいまの本年上半期の事業説明についてご質問、</p>

	<p>ご意見はございませんか。</p> <p>四柳委員、「親子で行く花とふれ合うはなまるツアーin 秋葉区」についていかがですか。</p>
四柳委員	<p>私は（当日）仕事を立て込んでいて（現地に）行けなかったのですが、人数が少なかつたらしくて残念です。今後いろいろなやり方で、（花を）作っている現場と消費者との交流があっても良いと思います。一回目は人数が少なくて残念でしたが、次回は良いアイデアを考えてやれば良いと考えています。</p>
森田会長	<p>ありがとうございました。ほかにご意見ございますか。</p> <p>それでは本題の（仮称）食育花育センターの方に移らせていただきます。「議題（2）の（仮称）食育花育センターの運営について」事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局 （本間主査）	<p>「資料2・3」、「資料4」について一括説明。</p>
事務局 （戸田副主査）	<p>「資料4」平成23年度 食育・花育センター実施事業一覧（案）※花育事業抜粋の表の中から（中分類）5「<u>花育の普及</u>」、6「<u>市民との協働</u>」の2点について補足説明。</p> <p>新規事業なので、委員の皆様からアドバイスをいただきたい。</p>
森田会長	<p>ありがとうございました。内容が多岐にわたっているので、大きく二つに分け、前半は（仮称）食育花育センターの管理運営について、その後に花育の実施事業、特に補足説明のあった表「5と6」の部分についてご意見をいただきたいと思います。</p> <p>最初に管理運営について「資料2・3」を中心にご意見ございますか。開館時間とか、休館日とか、施設の貸し出しなどについてもお願いします。</p>
四柳委員	<p>資料2のカラー図に「情報コーナー」とありますが、この情報とは「花とか食」、つまり「植物」とか「食品」の情報なのか、地域の「花の展示とか即売をやっている花夢里さんやフラワーランドさん」のようなお店などの情報も含め、ここで展示や提供をされるつもりなのかお伺いしたい。</p>
秋山課長	<p>ホームページのような情報伝達メディアもあるが、センターに来ると食と花に関する市のイベントがすべて分かるようになればいいなと考えています。ご質問のフラワーランドとかJAとか、いろいろな性格の民間団体のパンフレットなどを置くとなると、公の施設にどの範囲まで置けるか、検討しなければならないと思います。どっかの民間企業のPRみたいなパンフレットが置けるか否か、議論があります。公平感が保てる範囲で情報提供をしていきたいと思っています。</p> <p>（仮称）食育花育センターには「花の直売」などの販売の機能を恒常的に持たせていません。今の園芸センターでも買えないのと同じで、展示などを主体に運営していきたいと考えています。花の直売が必要かどうかという点については、「民活」の方で必要な議論をして「仕組みや施設」を作っていくようにして、（双方が）住み分けられています。「臨時なイベントなどで販売をどうするか」の議論はあると思いますが、（仮称）食育花育センターに行っても、フラワーランドや花夢里のような花の買える広いスペースは想定していません。</p>
四柳委員	<p>イベントをやろうとすれば、民間の協力が必要になると思います。そちら（民間）の方の情報を流してやり、また（仮称）食育花育センターの情報も民間に流してやるような双方の協力がないとボリュームのない催しになります。可能な範囲で民と官の協力関</p>

	係を構築できれば良いと考えます。
森田会長	開館時間とか休館日は妥当な線ではないかと考えますが、その辺については「資料2」に詳しく書いてあります。
伊藤委員	開館時間は「9時～5時」までですが、講座とか研修などは夜に開いてもらえば参加者の幅が広がると思います。夜間に講座や研修が出来るように講座・研修室だけでも開けてもらえればありがたいです。
真木委員	同意見です。
丸山委員	今年の夏のように35度の時に開けておくよりも、サマータイムを設けるような運営方法を考えて欲しい。日中の三十何度の時に開けておく必要はないと思います。例えば、朝にセミナーをやるとか、決められた時間ではなくて「どの時間帯だったら、植物も含めてみんなが良い状態で出来るのか」を考えていただきたい。
森田会長	その辺の柔軟な運営はどうでしょうか。確かにもっともなお考えです。
秋山課長	こども創造センター、動物ふれあいファームが一年遅れで整備されます。本センターを含めた3施設が完成してから、どうしたら一番使いやすいかを決めたいと考えています。公民館とも性格が違います。(仮称)食育花育センターが早めにスタートしますが、最初から「休みも取らない、夜間もやります」のような(明確な)作り込みをせず、一年遅れの二つ施設の完成を待って、全体の運営を考えたいと思います。その時には民活部分の青写真も出てきますし、それらを踏まえた上で必要があれば時間だとか、休館日についても議論すればいいと考えています。それまでは基本的に「9時～5時」、月曜日は休園日として、対応していく方が、管理上の事故なども回避できると考えています。したがって、今すぐに講座や研修を夜間にすることは考えていません。サマータイムのあり方も含めて、「花を見せられる時期」は時間の延長などの弾力性を持たせたいとは考えています。
森田会長	休館日のところの※「季節やイベント～(中略)～開館する。」と書いてありますが、そのことですか。
秋山課長	そういうことです。どのような人の流れとか、何がどうなるかなど想定が無いわけではありませんが、はっきりしない部分もあります。先回も申し上げましたがあそこは夜になると真っ暗になり、安全性だとかを考慮して慎重にやって行きたいと思います。出来てから条例が全く変わらないようなことなく、何年かかけて弾力的にやっていきたい。
森田会長	はい、ありがとうございました。ほかにございませんか。 (仮称)食育花育センターの横にある多目的広場、体験圃場、花畑は暫定的な使い方なのですか。将来的にこの広い民活部分は今後の課題として残されているから、取り敢えず、こういう形で利用するのですか。
秋山課長	今、現場に行くと野原です。何もしなくてもいいのですが、完成した(仮称)食育花育センターに市民が訪れた時、回りが野原のままでは「いかがか」という話になります。空いているのであれば何か工夫した方が良く、と言う話になります。 市長からは「いきなり全部花畑にすると、大変なお金も掛かるので、ちょっと花畑にして市民に訪れてもらい、市民と相談しながら広げていきたいと思います。との指示を受けています。無駄遣いをしないように将来的な部分も含めて考えていきます。また、秋の収穫祭

	<p>のようなイベントを企画する場合、ここを使って開催することも出来ますし、街中の小学校は畑や田んぼを確保するのが難しいですから、来てもらって体験圃場として利用してもらおうなどの工夫を考えています。</p>
森田会長	<p>ありがとうございました。このあたりについてご意見ございますか。</p>
四柳委員	<p>食と花の交流センターの計画の時にも委員を務めました。今話を聞くと今までの計画は無かったことにしようか、みたいに聞こえます。せっかくですから、野菜や花が作れるように区画して、市民に貸し出してはどうでしょうか。将来は食と花の交流センターが出来るのでしょうか、その間の対応策としていかがですか。せっかく（仮称）食育花育センターが良くなったのに、その回りが荒地では寂しいです。</p>
秋山課長	<p>民活の部分の計画を諦めたり、止めたりしたのではなく、必要なものを段階的に進めましょうという考え方で検討しています。見直しているだけです。お荷物になるようなものを作っても喜ばれない、誰がどういう形で継続的にやって行けるか確認しながらやりましょうという考え方で、24年度から一部開園かもしれませんが、手掛けていくことになります。</p> <p>市民に貸し出して「来年止めるのか」となっても困ります。バックヤードについては、（仮称）食育花育センターの建設工事の搬入路や残土置場として使うことも想定していて、全部空いているわけではありません。貸し出しだとか、市民農園的な部分は全く駄目と言うわけではなく、状況によって判断していきたいと考えています。</p>
杉山委員	<p>体験圃場は基本的に学校ですか？</p>
秋山課長	<p>児童たちが使えるのがいい、とも考えています。</p>
森田会長	<p>体験圃場と言うと学校に貸し出すということですか。細切れにして使う形ですか。</p>
事務局 (佐久間主査)	<p>そうです。具体的には幼稚園、保育園、小学生を中心にクラスごとに1畝、この畝は何々学校、隣の畝は何々学校と年間を通じて栽培から収穫まで体験してもらい、学校授業の一環として使っていただけるような体験圃場を考えています。</p>
森田会長	<p>杉山委員いかがですか。</p>
杉山委員	<p>大変ありがたいお話です。どこの辺りの学校が使えるのかな、などと考えています。是非、たくさんの方が使いたいだろうが、「足（交通手段）」を考えるとどうなのかなとの思いもあります。あの辺の学校なら田んぼもあって自然が豊かなはずで、欲しがっているのは中央区の都市部の学校なのかなとも思います。足をうまく確保できれば、この場所は活用できると思います。</p> <p>足を学校の輸送費などに求めるとなかなか厳しい。クラス単位であればどこからマイクロスバスを確保してご利用下さい、のような便宜が図れるならば活用できると思います。</p>
事務局 (佐久間主査)	<p>今、学校教育田について、特に中央区の街中の学校が歩いて行けないような田んぼを借りる場合、移動費を助成しています。それと同じような制度を予算要求しています。足を確保しないとなかなか使いにくいという話を聞いていますので、そのような形で準備出来たらいいと考えています。</p>
森田会長	<p>ありがとうございました。花畑のイメージがわからないのですが、どんなものですか。</p> <p>行事と関係して市民が参加して花を作るのか、それともセンターが担当する花なのか、その辺はまだ固まっていないのですか。</p>

秋山課長	（仮称）食育花育センターの中はバラ園だとかハーブだとか、多種類の花が入っていますが面積的には少ないです。花畑の方は広くて壮観だねと言われるように出来ればと考えています。来年の7月時点で市民に管理というのは厳しい部分があり、ここは花を植えて市民の意見を聞きながら、それを反映していきたいと思っています。将来的には全部市がやるということではなく、いろいろな形で市民に活用してもらいたいと思います。来年は市がサルビアを植えて、課題だとか問題点を検討することになります。
森田会長	今ある園芸センターの広い花壇にはサルビアが植えてありますが、新しい（河床）食育花育センター内の畑は見本園としての機能で、花畑が現在のサルビアの花壇の役割を果たすことになるのですか。
秋山課長	面積的には今のサルビア花壇より、かなり広くなります。
事務局 （木村技師）	（仮称）食育花育センター内の花壇と花畑の違いについて説明。
森田会長	確かに非常に広い面積ですね。（仮称）食育花育センター内の花壇と比べても、比べものになりませんね。維持管理は大変ですね。
伊藤委員	花畑は今までヒマワリとか、コスモスが植えてあり、写真を撮る人や見に行く人を多く見かけました。ヒマワリのような景観植物の方が手間もお金もかからないと思います。景観と環境を合わせて、例えば菜の花とかヒマワリを植えてオイルを絞ったり、あるいはミツバチを飛ばしたりして、食と繋がるような企画が出来ると思うと思います。
丸山委員	伊藤委員が話されたとおり、ただ綺麗というところからもう一步踏み込んで、「何故」それなのかを考えて欲しいです。サルビアが一面あれば綺麗ですが、ただそれだけです。ほかのものでも考えて欲しいです。新津のバイパスはヒマワリを倒したあとにトラクターで耕運し、菜の花をまいて芽が出てきています。あれは手が掛かっていないです。それと同じことをやれと言うわけではありませんが、そういう考え方をしたい。それと伊藤委員が話をされたミツバチですが、食育としてその蜜をどう利用するかです。僕だったら新潟の（仮称）食育花育センターで出来た蜜を仲立ちにして、海外のどこかと交流できたら新潟をもっと PR 出来ると思います。貧しくて子供たちが飢えた国がたくさんあります。多少であってもそこから何か生まれてくると思います。その蜜によって例えば鉛筆でもいいわけです。それを換えたもので、ほかの国の子供たちと交流できるはずで。この部分はもっと花育になるのではなからうかと思っています。夢のような話かもしれませんが、夢を追っていくことが食と花の政令都市新潟の、他都市にない価値が生まれていくのではないかと思います。どれだけかかるか分かりませんよ。
森田会長	確かにそうですね。景観が作れて、手が掛からないで、ミツバチも楽しめるし、それが出来れば良いですね。
丸山委員	どれだけ採れるかわかりませんよ。銀座で「ミツバチプロジェクト」をやっていますよね。あれだけ蜜が採れるのです。そういう動きが広がっていったら良いと思います。
杉山委員	新潟市で菜の花プロジェクトをやっています。私は赤塚小学校の時に第1期で申し込み、やろうとしたら異動してしまいました。油を絞って佐潟のハスをてんぷらにして、おいしくいただきましたし、あそこでレンコン採りもしました。こうした連動した行事

	<p>が出来ました。今、菜の花の話がありました。この施設にはクッキング（調理室）もあり、経験のない子供でもそこから食に結びつけることが出来ます。そうすると私たちも菜の花プロジェクトをやれるのだ、と言う話になります。一部でやっていることが、広がったりして、新しい楽しみ方が出てくると思います。その辺の連携は視野に入っているのでしょうか。</p>
秋山課長	<p>お渡しした事業内容の中には入っていません。(仮称)食育花育センターが具体的に「これだったらいっしょにやれるのではないか」と言うことになります。2年・3年かけ、いろいろなご意見をお聞きしながら連携して行けたらいいと考えています。菜の花やヒマワリの話ですが、やってみて失敗したり、うまくいったりの積み重ねで協働だとか、その辺が良いとかが分かってくると思います。</p> <p>国際交流だとか、ミツバチのご提案は具体的に検討していくと課題があり、それをつぶしていかなければなりません。大きなプロジェクトとして良いと思います。そういう思いで市民から(仮称)食育花育センターを活用してもらい、子供たちにも使ってもらえれば良いと思います。運営の方向性としてはそういうことも加味して、みんなが建設的に関わってもらえれば良いと思います。</p>
森田会長	<p>はい、ありがとうございました。管理運営のことに関してご意見がある場合は、後で発言してもらうことにして、もう一つの「実施事業(案)について」の方に移りたいと思います。</p> <p>資料4の2枚目の新規事業で※印の付いている6項目です。「5 花育の普及」、「6 市民との協働」です。それとその上の花畑、見本園展示、あと資料2の事業展開の考え方、辺りを含めてご意見をいただけませんか。花育の普及「花育の日」について、食育の日と同じにした方は良いかどうか。「ふるさとの花カルタ」を小学校のコンペのようにする案があります。</p>
伊藤委員	<p>「花育の普及」では人材育成の部分が欲しいです。ボランティア活動を志す人に対して「年間を通して花の勉強が出来るような環境(プログラム)」を整備して欲しい。それを受講した人たちが、自分たちの地域でボランティア活動をするとか、(仮称)食育花育センターで管理のお手伝いをするとかの人材育成の事業が欲しいです。家で育てている花と現場の広いところで育てている花は、意味合いや管理が違います。マンパワーの活用も含めて人材育成の部分があるといいと思います。</p>
森田会長	<p>前にも議論したことあると思いますが、人材育成が最終的に花育マスターの登録で終わってしまったように思います。どうゆう話になっていましたか。</p>
伊藤委員	<p>アシスタントを育てましょう、と言う話をしたように思います。</p>
森田会長	<p>その話はそれ以後、具体化しませんでしたね。花育マスターを発掘して登録するという活動したが、それでは不十分だと言う議論になり、アシスタントを養成していくと言う話でした。その辺、もし検討されていないようだったら、結構ですが。</p> <p>一番下の花育事業とも関連があると思います。講座、講習会をやられるわけですね。そこに来ている人は一回で終わりなのですか。そうゆう人をアシスタントに繋げていく工夫が出来ないのでしょうか。</p>
伊藤委員	<p>都市緑化の方が天寿園で行っている「年間を通したガーデニング教室」がありますが、</p>

	そこに参加している受講生をスキルアップしてボランティアに繋げていけないかと思 います。ガーデニング教室は、毎月コンテナとか寄せ植え作りをしています。それだけで はなくて地域の活動としてやっていくとか、センターでボランティアに参加してもら うとか、人材を育成するようなことが出来ると良いです。
森田会長	花育の日について何かご意見ありませんか。市民に意見を聞いてみるようなこともあ りえますね。
丸山委員	「花育の日」についてですが、日本には花の歳時記があって、1月の花は例えば松で、 3月3日は桃の節句、5月は菖蒲とか、いろいろあります。これを参考にして毎月の花(植 物)を作り、それを月一回楽しむことでもっと身近になると思います。一年に一回では 忘れてしまうと思います。
森田会長	確かに花の場合は季節がありますね。年に一回の「花育の日」をやるより、その方は 良いですね。
丸山委員	季節ごとに変えていくのが良いと思います。僕が知っているのは少なく、9月9日は 重陽の節句で「菊」を愛でる日本の花文化があります。9月9日の重陽の節句が何故そ うなったか、いわれとか飾り方を含めて学習することは大事なことだと思います。
森田会長	なかなかおもしろいアイデアです。
四柳委員	食育の日は全国的に認知された日なのですか。
事務局 (黒崎係長)	はい、食育月間は毎年6月、食育の日は毎月19日として国が食育推進基本計画におい て定めています。食育を重点的、効果的にしていくための取り組みで、新潟市もそれに 基づいて実施しています。
四柳委員	「花育の日」に関してはほかの団体なり、他県での事例などは一切無いのですか。その ような事例があれば連携してPRしていく方法もあるかと思います。
秋山課長	この実施事業一覧で出しているのは、委員の皆様との約束事をまとめたもので、23年 度に「花育の日」とか「花カルタ」を作ったらどうかとあります。正直来年7月オープ ンの(仮称)食育花育センターの準備に追われて、中身をしっかり検討しきれていませ ん。「花育の日」を23年度中に決めることもあり得ますが、みんなで話し合って24年度 以降にずれ込むかもしれません。今はきちんと現状を報告させてもらっています。 食育は法律に基づいていますが、花はなかなか認知されていない部分があります。新 潟市が独自で定めるのも構いませんが、全国的な視点では花普及センターとか、農林水 産省がどうするかなど、全体の状況を見ながら検討していく方が良いのではないかと思 います。
森田会長	あまり慌てなくてもいいでしょうか。
楠田委員	「花育の日」は普及するためにはあった方が良くと思います。ある大手スーパーは「花 の日」と言うのが毎月20日にあり、価格を5%引きしてくれます。日とか月はいつも 構わないのですが、広く市民に周知するにあった方が良くと思います。
真木委員	楠田委員の意見に賛成です。 今年、大勢の人が花に触れるイベントが新潟市内で1回だけありました。ラフォルジ ュルネの始まる前に、「適当に集って参加して良いですよ」と言う呼びかけがあり、すば

	らしい企画が実現しました。海外から来られたお客様は、りゅーとぴあの中に展示された花絵を見て、また外の広場に設置された大きな画面で綺麗な形に生まれ変わったチューリップを見て感激したと思います。「花育の日」は一般の人が分かりやすい形でやるようにしてはどうでしょうか。ラフォルジュルネとか、大きなイベントに付随させるやり方です。「今日は花育の日だからりゅーとぴあに行こう」と感じる雰囲気にして、ほのぼのと家族で参加出来るようにすれば良いと思います。完成品（花絵）も観られるし、テレビにも映ります。その辺は関さんが詳しいと思います。
関委員	たまたま、4月29日にずっと花絵を作ってきました。ですから、29日は「花絵に参加する」という思いで毎年来て下さる方いらっしゃいます。チューリップのピークの日になっていると思っています。イベントだからと言うわけではなく、「秋に自分の植えた球根が、翌春に咲くから行く」という繋がる形にしたいと思っています。そのためには球根植えからスタートし、花畑となり、触れる機会が出来るのが4月です。ラフォルジュルネは天候がとても悪い日だったのですが、後の2日は楽しんでいただけたと思います。
森田会長	はい、時間もだいぶ押してきましたが、市民との協働の方に進みたいと思います。
秋山課長	さっき、伊藤委員が話されたマンパワーの件ですが、花育推進計画の中では「制度設計」と「具体的に何をしていくか」を分けたいと思います。制度設計では「アドバイスを行う花育マスター」があり、花育を推進する人材の育成を行います。そこでは登録制を創設して団体が活動しやすい環境を整えるとともに、市民活動のリーダーやボランティア育成を行います。ここに「花育マスター」はありますが、先ほどのアシスタントは位置づけられているのですか。
森田会長	たぶん、花育マスターのところで終わっていると思います。以前の委員会において、花育マスターはかなりのプロのレベルで、実際の現場になれば花育マスターと素人の間を繋ぐもう一段下のアシスタントが必要だとの議論が話し合われました。元々の経過の時は「花育マスター」だけで終わっているはずですが、そのころに話し合った花育マスターのイメージはアシスタント的な要素も含んでいたように思います。ところがやっているうちに、花育マスターの質がどんどん高くなった経緯があります。花育マスターはそうではなくて、もっと緩いものと位置付けられれば良いのかもしれない。
秋山課長	どちらかと言うと花育マスターの範囲を広げるといふか、下ろしていく方向にやるといふことでしょうか。
森田会長	そうですね。その過渡期の間はアシスタントを考えてはどうかということですが。
伊藤委員	花育マスターはそのままで良いと思います。派遣されて現場に行くのはプロの方が良いと思います。私が話をしている人材育成は、「お花が好きで勉強されたい人」がターゲットです。先ほどお話しした都市緑化の講習会が10年以上続いているくらいですからターゲットは100人以上いると思います。そうした人たちに現場でのボランティアに参加してもらい、あるいは住んでいる地域の花作りリーダーになってもらうような人を育てる仕組み作りをしてほしいということです。
森田会長	この話はその後、具体化していません。
四柳委員	花育マスターと言う冠がついたような形で参加するのは勇気がいるし、自分の技術に対して確信がないと申込み出来ないと思います。私たち（業界の人）は自分の商売の範

	<p>囲内のことしかわからないから、皆さんに教えることは出来ないと思います。花育マスターといっしょになってボランティア的にお手伝いをするポジションを設けるような仕組みがあってもいいかと思います。花育マスターは自信ないが、ボランティアならやれるかと言う気持ちがあつてのことです。</p>
森田会長	<p>少し事務局の方で整理していただけますか。その後は意見もありましたが、詰めていなかったですね。時間が押していますが、市民との協働についてご意見をいただけますか。</p>
杉山委員	<p>先ほど花カルタについては学校に応募してもらおうと言う話がありました。それも一つの方法ではあると思いますが、あまり焦らないで、(仮称)食育花育センターが市民に定着し、子供に愛されるようになりつつ、一年二年とかかりながら出来ていく方が良いと思います。学校に振ってもイメージが出来ないような状況から生まれた作品では、良い作品は出来ないと思います。来年7月の開園に向けて、書くためのモデル、どのような形でカルタを作るのか、2年～3年かけてどんなカルタを作り上げるのか、良い文化をみんなで作ろうと言うコンセプトで、大人子供を問わずに応募してもらえば良いと思います。</p> <p>一遍に全部50音を作り上げるのではなく、良い作品を選びながら展示し、次の挑戦の機会を与え、関心を持ってもらいます。学校でも栽培委員会などに投げかけをして応募を待てば、反応はあると思います。そして複数年経ってから、「こんな形にまとまりました。皆さんの力ですよ。」とやれば、市民との協働(協同?)でもあるし、学校にお任せするよりも良い形のカルタが出来るような気がします。</p>
森田会長	<p>良いご意見を伺いました。これから(仮称)食育花育センターが動き出すのですから、そこの活動にお任せすれば良いわけですね。</p> <p>今のご意見についても結構ですが、市民との協働についていかがですか。資料2の「市民力・地域力の活用」の「市民協働の土台作り」と言う部分です。「どうゆうところから始めていくか、何が必要なのか」を中心にご意見をいただけますか。</p> <p>加藤委員、園芸福祉の点ではいかがですか。</p>
加藤委員	<p>ここに書かれている高齢者、障がい者が「花や緑」と親しむ機会の創出についてですが、一般の市民の方といっしょに楽しむと言う表現が良いと思いますので、<u>高齢者、障害者と「花や緑」を楽しむ機会の創出</u>に書き換えたらいと思います。花や緑をきっかけにして、いっしょに高齢者、障がい者の方と親しむような盛り上がりが良いと思います。</p>
森田会長	<p>加藤委員はすでにこうゆう活動をされているわけですね。</p>
加藤委員	<p>そうですね。高齢者施設に出向いて「花遊び」とか、農場に障がい者を受け入れて農作業をやってもらうような活動をしています。</p>
森田会長	<p>その活動を(仮称)食育花育センターでやるためには当面何が必要ですか。</p>
加藤委員	<p>遠方から(仮称)食育花育センターに高齢者、障がい者の方に来てもらうのは困難ですから、こちらから高齢者や障がい者の施設に行って「花や緑」に触れ合い機会を作ることが出来たら良いと思います。花育マスターが行くことになるのか、先ほどの話のボランティアの方も同行して関わる形が良いのかなと思います。</p>

森田会長	市民との協働と言うのは、最終的な（仮称）食育花育センターの活動のあり方として目標になると思いますが、実際には難しい面があります。どうゆうところを手がかりにして始めたらいいか、企画に合わせた体制作りと書いてありますが、なかなか難しいです。ご意見をいただけますか。ボランティア活動の促進、団体間の交流促進など書いてありますが、どこから決めていいか分かりにくいです。今のところ事例調査、関係団体の聞き取りなどから始めるようになってきていると思います。その辺を事務局ではどうお考えですか。
秋山課長	どの部分ですか。
森田会長	ボランティア活動の促進、団体間の交流促進などで、目標としては大事なところだと思います。どうゆうところから始めていったらいいかと言うことです。どの辺が困っているかと言うところです。
秋山課長	協働の部分は大事なのですが、時間もかかるし、難しいと思います。センターが出来たからいきなり、協働が出来るとは思いません。何もしないと一歩も進まないの、先ほどの園芸福祉と同じで出来るところから少しずつ始めたいと考えています。団体間の交流促進については、花育活動についていろいろな団体があります。その人たちがセンターで活動する時に情報や意見の交換をしてもらい、交流の場として活用してくれることを期待しています。市の方でボランティアを募る・募らないの話はありますが、どの段階で、どんな形でやるかについては決まっていません。仕組み作りについてはまだ検討の余地があると考えています。ほかのところでは会員募集だとか、いっしょにやりませんかのような勧誘はいろいろやっていますので、近い将来はそのこともやっていく必要があると考えています。例えばイベントをやる場合、センターを利用する食育や花育の活動団体に声をかけて実行委員会を立ち上げれば、多くの団体と活動が出来ます。場所を提供するのも現実的な協働と考えていますし、また「金はないけど、人を出すよ。」と言うのも協働と思います。少しずつ作り込みをしていければ現実的だろうと思います。活動を促進するためにはどこかの段階で組織化しなければならないが、食育と花育の背景をふまえて、ゆっくりした状態でまとめていく必要があります。やる時はみんなに声をかけて、出来るだけ参加してもらって、たくさんの人に来てもらいます。その後、みんなの意見を集約し、改善を図っていくことになると考えています。地域の方々やいろいろな団体に関わってもらい、市も含めていっしょになって活動するというスタンスで地道にやっていければと考えています。
四柳委員	高齢者や障がい者の施設に出向く場合、ボランティアや人間は協力しますよ。資材とか苗などお金のかかる部分については、センターのバックヤードで作った苗や資材の提供も可能と考えてよろしいのですか。
森田会長	センターの活動として（福祉施設に）出て行くことですか。
永田所長	花育マスターの話になると思います。要望があった場合は主体的、継続的に出て行くも考えていかなければならないと思います。今の段階で、「そうします。」とは言い辛い面もあり、状況を見ながら、そういう方向性もあると考えています。
森田会長	最終的にはネットワークを構築することで、センターがその要になることだろうと思います。センター（の職員）がどこかに出かけていくというイメージではないですね。

秋山課長	今すぐ、駄目ですよ。と言うことではないです。仮に「する」となればやり方も含めて、どの程度の準備をするなどは、今後検討していかなければなりません。人員の配置をふまえて出来るところからやっていきたいと考えています。
森田会長	考え方としては「ネットワークの要になる」と言う発想でしょうか。センターに高齢者や障がい者に来てもらって何かをすると言うイメージではないでしょうかね。それだと大変だというのが加藤委員の意見です。
伊藤委員	ボランティア活動の推進の部分で、ボランティア活動団体等とありますがこれはどの辺りを想定されているのですか。
永田所長	この表にある「団体間の交流の促進」とありますが、その辺りははっきり把握していないため今後の課題となりますが、想定される団体を取り込んでネットワーク化を図っていききたいと考えています。 先ほどのアシスタントの育成制度については第2回、3回開催の委員会に議題として話し合われて、事務局は「22年度は研究させてもらいます」と返答としています。今言われたとおり、話が進んでいない状況ですが、少しでも前に進んで行きたいと思っています。
伊藤委員	「新潟ばら会」と言う任意団体があり、私も会員で、花育マスターの「佐藤七郎さん」も本会の副会長です。大変活発に活動していて年2回展示会をやり、この秋にも天寿園でバラ展を開催し、アンケートが千人分以上集まったと聞きました。本会は新潟でのバラ栽培に精通していますし、この地域でバラを育てる技術も確立していて、市内の公園でも講習会の講師を務めています。新しいセンターにもバラ園が入っていますから、このような団体にバラ園の管理をお願いして、市民向けに講習会を開催し、普及活動のお手伝いをしてもらえば親しみやすいと思います。植物の専門性も出てきますので…
森田会長	ボランティア活動団体と言うと、少し抵抗があります。伊藤委員はばら会と自らをどのように位置づけしていますか。
事務局 (木村技師)	現センターでも新潟ばら会、洋ランの同好会などに講師お願いしているし、(仮称)食育花育センターに移ってから、植物管理はじめ、人材育成(ボランティアあるいはサポーター)に協力要請する計画(案)があることを説明。
森田会長	関委員、新潟花絵プロジェクト実行委員会はボランティア活動団体なのですか。
関委員	そうです。
森田会長	ボランティア活動団体と(周囲から)呼ばれているからなのか、それとも自ら称していることなのですか。
関委員	ボランティア団体「花絵プロジェクト」です。
森田会長	分かりました。それなら結構です。実質的に趣味の会もあるし、ボランティア活動として位置づけていないところもあると思います。そうゆう組織に協力してもらって活動できるネットワークならば良いのですが、ボランティア活動団体の範囲が狭くならないか。もっぱらボランティアをやるための会として受け取られるのではないか。 伊藤委員、ばら会は大丈夫なのですか。

伊藤委員	新潟でのぼらの栽培技術を普及したいという考え方からです。団体で活動する方が普及しやすいと思います。 個人が行って講師をするよりも、団体が市民といっしょにやる方が良いと思います。
森田会長	全般的に何かご意見はありますか。
今西委員	生産花卉の消費低迷が続いています。今年JFTDが実施した調査でもその傾向に変わりはありませんでした。今後生産花卉を飾るだけでは市民に理解されにくくなってくると思います。花に対する見方が社会的に変わってきています。この16日に富山で「花と人とのかかわりの変化を探る」と題する講演をしました。主催側があわてるほど130名以上の方々が聴きに來られ、このようなテーマへの関心の高さが感じられました。今度の施設もより多くの市民に利用していただくためには、飾るだけではない花、花と環境、地域、伝統、文化等のテーマに取り組んでいく必要があると思います。地域固有の行事、祭事に関する花飾りとか、生物多様性に配慮した花壇、アレンジメント等を提案していけば、花から離れつつある市民の方の関心を、もしかしたら少しずつ取り戻せるかも知れません。花の消費縮小の状況は10年以上続いています。その背景に何かあるのかを考え、対策を立てて花育を進める必要があるのではないのでしょうか。
森田会長	(仮称)食育花育センターについて何かご意見ありますか。
秋山課長	説明不足のところがありましたので補足させていただきます。センター内の調理室、講座研修室は貸し出しますということになっています。市の施設はすべてそうですが、受益負担の関係で調理室の利用、講座研修室も1時間当たりいくらの使用料をいただくように思っています。センターへの入場料は取りません。作品の展示スペースの辺りは、上の方と相談したいと思います。食育花育センターの利用について、営利が目的である場合も使ってもらって構いませんが、使用料は一般の2倍になります。目的によっては使用者から応分の負担をお願いするつもりです。この辺は12月議会で承認を得ながら進めていきたいと思っています。
真木委員	(この会場の後ろの)壁にかけてあるパネルの内容「緑の機能」が、先ほど今西先生の話されたことだと思います。一般の人がセンターに行くと「植物が人間の環境を守ってくれる」というようなテーマを訴えるような展示(仕掛け)があると良いと思います。個人的な興味ですが、シンボルツリーは何になるのですか。ここに植えてある木を移植するのですか。植栽基本計画図の左上にあるシンボルツリー、シンボルなのでお考えはありますか。
秋山課長	何をシンボルとするかはいろいろな考え方があるので相談して決めていきたいと考えています。来年の7月に「ここがシンボルツリーです」とは決まっていなくてもいいかもしれません。
真木委員	入口はどこになるのですか。
永田所長	植栽基本計画図を使い、駐車場からのアクセスを説明。
四柳委員	((仮称)食育・花育センター開園イメージ図の)外周の赤い線の部分は(生垣とかフェンスで)囲ってしまい、開園時間以外は入れなくなるのですか。多目的広場とかの部分はどうか。
秋山課長	生垣だとか区画はきちんと整備します。錠で閉めることは現段階では考えていません。

四柳委員	建物は入れないけれども、休園日にも見ることは出来るわけですね。
秋山課長	7月以降はそういう形になると思いますが、検討します。
四柳委員	周りをフェンスで囲ってしまえば入れなくなります。
森田会長	私のイメージでは、開園日以外は入れないと思っていました。
事務局 (瀧澤主査)	今のご質問については駐車場も含めて、開館時間外に「入れる入れない」はまだはっきり決まっていません。今のご質問は「時間外でも入れる方が良い」とのご意見でしょうか。
四柳委員	そういうわけではなくて、単純にどうなのかと思っただけです。
事務局 (瀧澤主査)	周囲は生垣で囲うことが決まっていますが、入口を閉めるかどうかはこれから検討していきます。ただ、全体はどこからでも見渡せるようになっています。
森田会長	時間になりましたので終わらせてもらいます。たくさんのご意見ありがとうございました。事務局ではこれらの意見を踏まえて、(仮称)食育・花育センターに反映させていただきたいと思います
永田所長	委員の皆様からは貴重なご意見をいただきありがとうございました。これらを踏まえて(仮称)食育花育センターの準備を進めてまいりたいと思います。 長時間にわたり、議論をいただきありがとうございました。今回はこれで終了させていただきます。次回2月の委員会では今年度実績の最終報告をさせていただきます。近くになりましたら日程等をお図りしながら開催したいと思います。どうもありがとうございました。